平成28年度 事務事業評価シート

	事務事業名		名	(仮	称)5	上跡 -	セング	タ—車	と備.	事業				担当部	iß :	教育委員会事務局	
	会計区分		分	一般会計			Ħ		事業	類型	施	設整備	系	担当詞	果	小牧山	」課
	事業期間			平成27年度			~ 平成29年			9年度	年度 担当係 史跡係			Ŕ			
	総合計画 振振振		施策等	4 教育文化			15	文化抗	興		3	小牧固	有の歴史・文化遺産を保全・活用します				
	新基本	画信本	76.A. ()	重点	事業			実施計	画事業	()						
		9算区2		款		0	項			目		7	大	2		中	3
	根拠法	T		史跡小牧山整備計画基本構想、文化振興ビジョン													
	目	何・誰を		小牧山						,, ,							
	的			小牧山の豊かな自然や歴史的価値・魅力を伝えるため、情報発信拠点となる(仮称)史跡センターを建設する。													
事																	
業																	
7.13																	
_ග				◆27年度実施内容 平成26年度に策定した「(仮称)史跡センター整備基本構想」に基づき、(仮称)史跡セン ター建物や展示の基本設計の作成、建物周辺の土塁などの遺構を復元整備するための周													
0,																	
概						計画を											
1131.	内:	容(手)	段)	◆27年度直接経費の内訳													
	目的	達成の	りため	堀の内体育施設解体工事設計業務委託(1,404千円) (仮称)史跡センター周辺整備基本計画策定委託(4,536千円)													
要		りようた ミ施し <i>た</i>									5,562= 2,020=						
									Т	Д 10 (2,020	,					
				(仮和	东)史		ター展	示実施			15,000						
											35,111 §託(6,						
				(.,,						~ = 0 (=)	•	,				
	受益者負担		担	無	ŧ												

					H25決算額	H26決算額	H27決算額	H28予算額
		直接	経費	千円	0	1,944	13,522	56,311
		正職員	従事者数	人		0.40	1.20	1.60
	-++-	正娰貝	人件費	千円 0		2,200	6,601	8,801
	費用	その他職員	従事者数				0.00	0.00
ス	,	ての心戦員	人件費				0	0
		費用	合計	千円	0	4,144	20,123	65,112
 		対前年比		%		#DIV/0!	485.5	323.5
	財源	一般財源 国·県支出金		千円	0	4,144	20,123	65,112
				千円		0	0	0
		その他	也財源	千円		0	0	0

事業番号	273

	活動指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	展示·建設基本設計進	%	目標			100	_
	捗率	70	実績			100	
فالد	展示·建設実施設計進	%	目標				100
業	<u> </u>	/0	実績				
			目標				
			実績				
績	成果指標名	単位		H25	H26	H27	H28
	展示・建設基本設計進	%	目標			100	_
	捗率		実績			100	
	展示·建設実施設計進	%	目標				100
	捗率	/0	実績				

	平成27年度の実施結果	事業の 達成状況		「(仮称)史跡センター整備基本構想」に基づき、予定どおり基 ことにより、次年度の実施設計に向けた準備を行うことができ
		事業実施におけ る課題		策定するにあたり、当初想定していなかった法令等の影響を め、基本構想の内容とは建物概要等の変更を行う必要が生
事業の		方向の目的に対	ができ、平成30年春の	设計が完了したことにより、平成28年度に実施設計を行うこと 完成に向けて事業を進めることができるため、市民共有の財 快・文化遺産である小牧山をPRし、後世にその歴史的価値 とができる。
の自己評価	改善内容 平成28年度の	28年度における 事業の改善・見 直し内容(新規追 加事項、廃止・削 減事項等)	建設工事を行うに際して ルに遅延が生じないよう	、各種法令等に抵触がないかの調査を行い、建設スケジューにする。
	平成29年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの (対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	平成30年春の完成に向	けて、継続して事業を行う必要があるため。
		29年度以降 の改善案		建物の建設、展示物・什器等の作成、建物周辺の復元整備工 れるため、これまで以上に事業の進捗管理を徹底して行って

l <u>-</u>	_	方向性の	判定		判定	理	由
沙評価	文 平 西	維持	寺	一次評価のとおり。			